

◆ Artist Profile ◆

Nadja

from Mozambique



Nadja (マコンデ名: ナジャ)

ボーカリスト&ギターリスト

1987年モザンビーク共和国・カーボデルガド州・ムエダ生まれ。ペンバ在住。マコンデ族。モザンビークを代表するミュージシャンである故・ナングンドを叔父に持ち、幼少期よりアフロルンバをはじめとしたアフロミュージックを学ぶ。

5歳までモザンビークの悲惨な内戦を経験しており、その壮絶な記憶がナジャの争いごとを恐れ、平和を心から望む、精神の一要素となっている。

18歳で最初のバンドを組織。2010年よりバンダ・ミューナ (Banda Myuna) を結成、民族の誇りや社会問題を作詞作曲し歌い上げる。

隔年行われるモザンビーク最大規模の音楽祭での受賞や、行政の社会貢献イベント (GALA) や大統領選挙のキャンペーンアーティストとしても起用され、精力的に活動を展開中。近年はモザンビーク大統領夫人とスワジランド王妃のセレモニー等、アフリカの政府要人の会合での演奏が多い。

また彼の出身在住地区であるスラムの子供・青年たちの可能性を切り開くため、『NGO モザンビークのいのちをつなぐ会』の活動も設立時から手伝っており、ペンバ美化活動やスラムの学舎・寺子屋での読み書き、算数、音楽、公衆衛生教室などにも注力している。

ペンバ青年協同組合 (政府認証アソシエーション) PVM 代表。

< 日本公演履歴 >

2015年 : Japan tour, 59ヶ所

2016年: Japan tour, 40ヶ所

2017年: Japan tour, 80ヶ所

2018年: Japan tour, 71ヶ所

2019年: Japan tour 45ヶ所

2020年: 新型コロナウイルス感染対策のため自粛 (福岡県内4ヶ所実施)

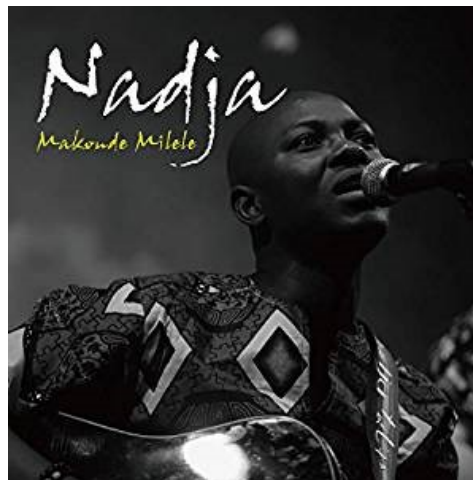
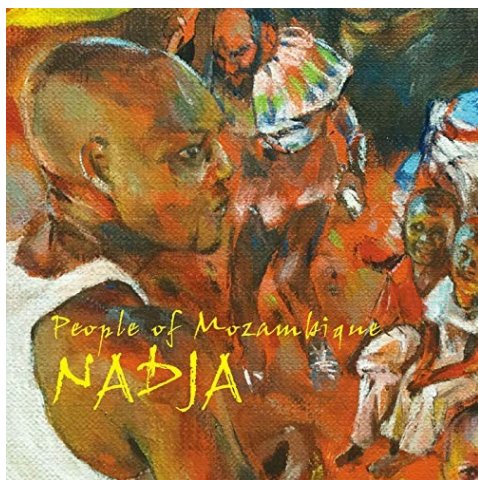
日本公演経験 : 299ヶ所

< Album >

2012年: [Cabo Delgado Music Live] compilation album

2015年: [People of Mozambique] Nadja, Makonde Records

2018年: [Makonde Milele] Nadja, Makonde Records



< Reference: YOUTUBE > SONG OF NADJA , Live and Second Album

sing with a guitar Vanu (People)
https://youtu.be/qUejqtKK_5s

sing with a guitar masakini (Handicap)
<https://youtu.be/bym1E7le8zw>

Second Album [Makonde Milele] namumu (hide-and-seek)
<https://youtu.be/lyFdch39GMw>

Second Album [Makonde Milele] indala mwana (Hungry of children)
<https://youtu.be/CLorjR66pDY>

Second Album [Makonde Milele] vangwele (Monkey)
<https://youtu.be/RT2CFaD24lg>

Live with Nadja and Papou 2017
<https://youtu.be/2VkSOIDGYFI>

Second Album [Makonde Milele] isukiri(combination)
<https://youtu.be/r7f9nZzaaAY>



『京都新聞 2015年8月17日掲載』



『京都新聞 2015年10月2日掲載』





『西日本新聞 2015年10月17日掲載』

(岡山放送生出演) 西日本新聞

(岡本 恵さん)

榎本 恵さん Mezumi Ezumoto 女

My Job

No.050

非政府組織(NGO)代表

モザンビークの
いのちをつなぐ会
：北九州市小倉南区
アフリカ南東部のモザン
ビークで、教育支援や人材
支援、酒造り、公衆衛生
設備整備などに取り組む。
日本とモザンビークの相互
理解のためのイベントなど
も開催。

—モザンビークと出会ったきっかけは、
●榎本 2012年8月、日本のバイオ燃料企業
のモザンビーク進出をきっかけに、初めてアフリカの地を歩きました。
半年間、企業で勤務しましたが、現地が抱える貧困や環境問題を目の当たりにし、それを解消すべく、13年4月、「いのちをつなぐ会」を立ち上げました。

—現地での活動内容について教えてください。
●榎本 私が住んでいる所はスラム前で、親がいない子どもや学校にいけない子どもがたくさんいます。ここで学舎や寺子屋を建設したり、村にトイレや井戸を作ったり、現地の人と一緒に有機農業などに取り組んでいます。現地の人と一緒に汗を流し、少しでもより良い暮らしになるよう支援することが使命だと思っています。

—今回、現地のアーティストと来日し、福岡市でも公演されます。
●榎本 8月にモザンビークの人気ミュージシャン2人＝岑真一と来日し、全日本で公演しています。福岡市でも25日午後3時、同市中央区警署のイェナコービーで開催。少しでも多くの人にモザンビークを知ってもらえる機会になればと思っています。(納きはPan Fun Pokoyotaで)

(第3種郵便物認可)

アフリカ・モザンビークのナジャさん スラムのヒーロー福岡公演

28日 小倉南区のNGO主催

アフリカ・モザンビークのスラムで育った男性ミュージシャンが来日し、各地でコンサートを開いている。小倉南区に事務局を置くNGO「モザンビークのいのちをつなぐ会」の主催。現地に住み、教育支援や公衆衛生改善にあたる榎本恵代表(42)「同区出身」は「スラムの子供たちのヒーローになってほしい」と話す。

男性は同国北部のマコデ族、ナジャさん(27)。音楽は我流で、自転車のブレーキワイヤで弦を張った手製のギターで音楽を始め、仕事をせず家族に

男性は同国北部のマコデ族、ナジャさん(27)。音楽は我流で、自転車のブレーキワイヤで弦を張った手製のギターで音楽を始め、仕事をせず家族に



ナジャさん(右)とコンサートを企画した榎本さん

不動の地位を築く。榎本さんはベンチャー企業支援会社を経営していた3年前、モザンビークへ出張。豊富な自然資源を持ち、外国企業が投資を進める一方、人口の大部分が日収約1ドルの貧困にある。幼くして出産し育児放棄する少女や、学校に通えず物乞いをする子供たち。戸惑いながらも、必要なのは教育だと気付いた。「生きる

ために必要な知恵や知識をアドバイスすれば貧困層が抱える問題を解決できるのでは」と2013年4月にNGOを設立。スラムに寺子屋を建設したほか、食料自給率を上げるため農業指導などのプロジェクトを進める。ナジャさんとは出張後ほどなく知り合い、生命力にあふれた歌声やメロディーに感動。「経済的理由で海外に行けない地元の才能を紹介したい」と今回、日本ツアーを決めた。8、10月に80回以上開催。最終回は28日午

白石 | 州 N 九 勝山公園と陸橋でつながる市立中央図書館。オープン後は

Fan Fun Fukuoka

Home > ひと > モザンビークのいのちをつなぐ会 榎本恵さん



モザンビークのいのちをつなぐ会 榎本恵さん

薬剤師が注目する「医療コラム」

■ 半年間ランキング

- 1位 「調剤(アム)医療分業社利権次
- 2位 日医-リファル処方せん及付明書
- 3位 「患者が知る」(先発薬以外データなし)
- 4位 「薬局の調剤番号-公認すべき」
- 5位 薬局の調剤番号-公認すべき

※ 薬剤師の出発点としての

© 2015 Fan Fun Fukuoka

ファンファン編集部ピックアップ



Fan Fun 福岡では、当会代表・榎本恵が、連載コラムを執筆中

『毎日新聞 2016年10月21日掲載』

毎日新聞
25 地域 2016年(平成28年)10月21日(金)

モザンビーク共和国のナジャさん
「平和を取り戻したい」
マコンデ族の歌を披露
小倉北

最貧国の一つ、アフリカ東海岸のモザンビーク共和国からマコンデ族の人気歌手、ナジャさん(29)が北九州市を訪れ、18日、小倉北区砂津のチャチャタウ

マコンデ族の歌を披露するナジャさん

ンで、アフリカ特有のリズムのマコンデ族の歌を披露した。小倉南区朽網西に本部があるNGO「モザンビークのいのちをつなぐ会(榎本恵代表)が招いた。

マコンデ族は主に国の北部に居住する。内戦は終結したものの、政治的な混乱で南部の首都からの物資の輸送が滞り、経済的に苦しい状況が続く。現地で学校建設などにも携わるナジャさん

は「歌に人生の生き方を託し、平和を愛するマコンデ族の文化を知ってもらい、日本の人々の支援で平穏な日々を取り戻したい」とい

う。公演では、天使を意味する「マライカ」や、浮気の怖さを描く「スクールサル」などを歌い、拍手を浴びた。市内での一般向けのライブは次の通り。23日午後7時、小倉北区相屋町、スタジオ「パフ・ボックス(有料)▽11月6日午後2時、門司区谷町、松浦孝アトリエ。問い合わせは同会093・472・1444。【塩満温】

『讀賣新聞 2016年10月26日掲載』

10月26日(水曜日) 北九州 13 S

モザンビーク「6割貧困」

NGOの榎本さんから 朽網小で講演

アフリカのモザンビークで教育支援活動をしている民間活動団体(NGO)「モザンビークのいのちをつなぐ会」の榎本恵代表(43)らが25日、北九州市小倉南区の市立朽網小で、6年生約50人に現地の人々の暮らしぶりなどを語った。

榎本さんが朽網小出身という縁で、一時帰国に合わせた講演を学校側に提案。榎本さんは、モザンビークが1975年にポルトガルから独立後、92年まで内戦が続いたことなどを説明し、「失業率が高まり、人口の6割が貧困状態にある」などと話した。

また、NGOの現地スタッフでミュージシャンとしても活躍するナジャさん(29)が、太鼓などの伝統楽器の演奏を披露。ナジャさんは「現地の子どもたちは将来に夢を持つことさえ難しい。帰国したら、日本の子どもたちがどんな夢を持っているのか聞かせてあげたい」と語った。

モザンビークの暮らしなどについて語る榎本さん(左)とナジャさん

『福岡 FBS 放送 めんたい plus 2016年10月25日放送』



『福島中央テレビ ゴジてれ Chu! 2019年9月5日生放送』



『NHK 北九州版ニュース 2019年10月23日放送』



ASANTE, THANKS